


グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		運営理念「高齢者が地域でいつまでもなごやかに安心して暮らす為に必要な社会福祉事業」としている。グループホームの基本理念も作り上げている。 運営理念実現するよう努力している。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		運営理念を毎朝の申し送り時に唱和し全員が共有実践していくようにしている。 理念の唱和を続けていきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		運営理念を玄関ホールに掲示している。又、御家族様へお便りの発送や2ヵ月に1度会議への参加をお願いし理解して頂くようにしている。 地域の方々への理解を進めていきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		地域の夏祭りや行事には参加し、気軽に声をかけて下さっていただいているが、地域の方が立ち寄ってもらうような関係にはまだできていない。 地域の行事への参加を活発にしていきたい。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		地域の行事の参加や町内会へ入会したりと活動に参加している。 地域の関わりを今以上に増やして生きたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の方々との取り組みは行えていない。		今後努力していく課題であり取り組んで行くようにしたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員が意見を出している。評価を受けた後には報告を行い改善すべき点は積極的に行っている。		外部評価後は注意点について職員全員で問題点を改善するよう話し合い実行していきたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に1度の会議で取り組み報告している。		家族や地域の方々より意見をいただき今以上のサービス向上をしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者を中心にグループホーム事業者との勉強会にも参加を行い情報交換をしている。		今後も継続して行い、情報交換の場として相談できるようにしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、相談がある場合には説明しパンフレットを用意、対応にあたっている。		成年後見制度について今以上の理解を深めるよう努力したい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のカンファレンスにおいて、拘束の現状と虐待について話し合い防止に努めている。		これからも虐待防止について関心を持っていきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入所時には、契約書や重要事項説明書で十分な説明を行いご理解していただいている。契約時に疑問や不安も伺っている。</p>		<p>現在の状況を続け御理解、納得して頂けるようにする。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々の申し送り等で意見や不満を報告、職員は責任者へ報告し改善できるように努力している。</p>		<p>利用者様の声を十分聞くようにコミュニケーションを取り運営に反映させたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>生活の様子や健康状態は往診後電話連絡を行ったり、金銭管理については毎月の請求書等でそれぞれ報告している。職員の異動に関しては地域運営推進会議で報告している。</p>		<p>ご家族様への連絡は常に行いそれぞれ対応できる様に今後も続けていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>御家族様の苦情や意見は報告書を作成し全職員の伝達、又運営推進会議でも機会を作って意見を頂いている。</p>		<p>運営推進会議において話を伺えるようにしていく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度のカンファレンスの時等、意見交換を行い、又は個々の面談を行う事もあり意見が伝わるようにしている。</p>		<p>今後も意見交換の機会を設けて運営に反映するよう努力する。</p>
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>その時々柔軟に対応した勤務調整を行い、行事によっては増員も行う事もある。</p>		<p>職員の人員も確保され現在の状況で対応できている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は最小限に行われ現在は、職員の離職も少なく利用者へのダメージを防ぐ事ができている。</p>		<p>今後もこの状況が継続できるよう努力していきたい。</p>

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用にあたっては、年齢や性別を理由に採用対象から除外することがないように努めている。それぞれの能力が十分發揮できるような担当業務を決めている。又、勤務時間の希望を聞き入れシフトを作成している。</p>	<p>職員個々の能力を十分理解し、又は發揮できる職場環境を作っていくよう努力していく。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>人権マニュアルや接遇マニュアルを作成しそれを用いて研修を行っている。</p>	<p>カンファレンスや勉強会の回数を増やし人権教育を強化したい。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新しい職員は新人研修を行い現職場について指導を行っている。又、外部への研修にも参加、報告をして資料を回覧している。</p>	<p>それぞれの職員に合ったペースでトレーニングを続け、又外部研修への参加を活発にしていきたい。</p>
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホーム事業者との交流会を通じて意見交換を行っている。</p>	<p>今後も続けていきたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員の悩みは、各ユニットの主任、ホーム長へ相談、又は個別の面談を行う事もある。</p>	<p>各自の悩みについては十分コミュニケーションを取り解決できるようにしていきたい。</p>

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の目標をカンファレンスにおいて発表しその達成について報告を受け向上心を持って働ける環境作りにも努めている。		向上心が継続できるようこれからも良い環境を作っていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に本人様と面談を行い、又体験入所中にも色々な事を聞く機会を設けている。		事前面談では理解困難な事も多くある為、入居後もご本人より十分な話を聞く機会を多く持つよう努力する。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見学の時に家族の希望や、悩みを聞き、又相談については十分な対応ができるよう話し合いを持つようにしている。		家族との連絡を密に取り、想いや希望を受け止めるようにしていきたい。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	両者の話を聞き何を必要としているのかどのような対応が出来るか取り組むようにしている。		今後も必要としている支援を見極めご本人の希望に添うことが出来るよう努力する。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者様の今までの生活を把握した上で、ホームでの生活に馴染めるよう活動を支援し、又家族様とも十分に話し合い必要物品等を準備していただけるようにしている。		本人のペースにあわせ、興味のある物事や得意分野等を把握し、意欲的に過ごせる様に援助していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者様の個性を理解したくさんの会話をすることで喜怒哀楽を少しでも多く共有しようとしている。		現在の関係を継続し、人生の先輩方より多くのことを学ぶ姿勢で接していきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の時等、本人様の様子を伝え共に支えていく方法を考えるよう多くの会話をしている。		御家族様と職員が気軽に声をかけられるような関係を築いていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会は何時でも可能で御家族様との楽しい時間が過ごせるよう笑顔で迎えている。フロアや居室でゆっくりと過ごしていただけるようにしている。		御家族様との関係が疎遠にならないように職員が調整、支援していく。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出等は難しい状況になりつつあるが人との関係やご本人様の記憶を大切に支援に努めている。		大切にしてきたことを、継続できるようにしていきたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	ご利用者様同士の関係を十分に理解し、時には職員が間に入り良い関係を保てるようにしている。		細かな配慮を行いご利用者様同士の信頼関係を築けるようにする。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	様々な理由で退所された方もおられるがその後も御家族様とは連絡を取り合っている。(定期的に電話連絡を入れ、入院先へのお見舞いや死亡された方の御家族様とも連絡を取り合っている)		入院の為退所されてもその後もお見舞いに行かせて頂いたり、常に連絡が取り合えるようにしている。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中でも利用者様の希望を聞き職員間で話し合い対応できるようにしている。又、御家族様へも協力していただいている。		意思の伝達や困難な方には、色々な意見をくみとり出来る限り本人様主体になるよう努めていく。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の十分なアセスメントによって把握し何時でも情報収集が出来るようわかりやすくファイルされている。ケアプラン作成時には、再確認している。		今後も十分な情報収集を継続する。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活日誌や健康日誌によって一人一人の状態の把握が何時でも確実に出来るようにしている。		ご利用者様の気持ちをくみとった支援をしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご利用者様や御家族様の要望を聞き、又取り入れながらその時の状態に応じた計画を担当者、作成者、他の職員の意見を交え作成している。		職員全員で意見を出し合い、ご本人様主体の介護計画を作成していく。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化に応じて随時見直しを行い早急な対応をしている。		ご利用者様一人一人の添った温かく身近に感じわかりやすいプランを作成していきたい。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康管理シートや生活日誌等で心身の状態や出来事がすぐに把握できる状況であり情報の共有を十分行っている。		記録は十分行っているが職員個々の把握と差がある。全員の周知徹底に勤めたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本事業所のデイサービスとの交流やそのフロアを使用しての行事(レクリエーション)を実施している。		交流の機会を常に持ちながら今以上のサービスを行っていきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	さまざまな機関と協力を呼びかけている。周辺地域の施設へ行けば協力してください。		今後も継続して協力を呼びかけていきたい。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスは行えていない。		地域の他のケアマネジャーとの交流を行っていきたい。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連絡は常に行われている。		地域包括支援センターと関わりを今以上に増やしていきたい。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度かかりつけ医の往診があり体調管理を行っている。ご本人様や御家族様の希望も伝え十分な医療を受けられるようにしている。		今後もかかりつけ医との十分な関係を継続し適切な医療提供が出来るよう努力したい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医が認知症のもの忘れ外来も行っている為、診断や治療を十分に行える体制をとっている。		専門医の勉強会など実施していただき積極的に参加していきたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	1階デイサービスの看護職員とは日々連絡を取り毎日の排便の様子等相談している。又、かかりつけ医の看護師とも十分コミュニケーションがとれているので相談に乗ってもらえている。		デイサービスの看護職員との連携を深めていきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院後は医師や看護師との連絡を取り合い、又職員が面会し状況を確認して十分な情報を交換できるようにしている。</p>		<p>スタッフができるだけ面会をし今後のケアについても話し合いを行っていく。</p>
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期には、御家族、かかりつけ医、職員間で話し合い希望等、色々な情報は、全職員で共有している、</p>		<p>看取りについて御家族、職員との十分な協議を行い医師との連携を図っていく。</p>
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>重度化や終末期については、全職員で考え話し合いどのような支援を行うか、又かかりつけ医と相談、急変時の対応など、さまざまな状況への準備をしている。</p>		<p>常に話し合いを行いチームでの支援ができるようかかりつけ医との連携を図って、又アドバイスも受けながら行っていく。</p>
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>御家族や関係者との連携を十分に取リダメージを防げるように努力している。</p>		<p>住み替え時には、関係者との十分な情報交換を行っていききたい。</p>
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>プライバシーの保護には十分配慮し声かけの仕方について話し合い、又個人情報の取り扱いの注意を払っている。</p>		<p>個人の尊厳を守り、プライバシーには十分気をつける。</p>

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で本人様の希望を聞き、活動への参加の意思を確認、又わかりやすく説明を行っている。		利用者様全員の把握に努めたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースにあわせた生活が出来るよう支援することを心がけている。		現在の状況で一人一人のペースを守るよう努めたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	介助の必要な方は、職員が選ぶことが多い。1ヶ月～2ヶ月に一度、訪問の理美容を行っている。		身だしなみやおしゃれは、本人様の希望をもっと聞いて共に行っていききたい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等は、共に協力しながら行っている。		毎回の食事で片付けは、定着しておりこのまま継続していききたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	好きなおかし等は、御家族様よりさし入れ等があり楽しんでいる。		それぞれの方の状況に合わせて支援していききたい。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	それぞれの方の排泄パターンを職員が把握する様に心がけ、失禁等が少なくなるように声かけや改善を行い残存機能を活かした支援を行っている。		その時々にあった対応を行い不安のない排泄支援を行っていききたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の声かけを行い意思の確認をして入浴していただいている。ほぼ全員の方が体調不良を除き隔日で入浴を楽しんでいただいている、		それぞれのタイミングやペースを大切にしながら入浴を行っていききたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	それぞれの体調に応じて休息や入眠を支援している。		生活ペースを把握し安眠できる環境を整えていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割や楽しみごとを見つけ、少しずつではあるが一人一人にあった支援を続けている。		一人一人に合わせた気晴らしの支援は、不足しており行えるよう努力していきたい。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり保管している。ただし、少しの金額を持つことで安心できる方は、御家族との話し合いでご本人が自己管理されている。		買い物へ出かける事が現在出来ておらず今後機会を増やしていきたい。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	身体レベルの低下もあり外出できる機会が少なくなっている。戸外に出かける事を望む方もいない。		外出できる行事を取り入れ、又個別にゆっくりと散歩等ができるよう努力していく。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域との交流をする為の夏祭りや運動会、お花見等は、機会を作っている。少数の方が家族との外出を行っている。		家族様との連携で外出の機会が増えるように考えたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や文章を書く事が難しく、ほとんどの方が出来ず支援できていない。又電話も難聴の方が多いため支援に至っていない。		以前は年賀状や暑中見舞いを送っていた事もあったが少しずつ支援していきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	馴染みの方々の面会は、笑顔で快く迎えられるようにしています。		御家族に安心していただけるように笑顔を心がけていきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月のカンファレンスにおいて身体拘束について話し合っています。現在身体拘束をしている利用者様はおられません。布団に鈴をつけ介護上の工夫は実施しております。		今後身体レベルの低下に伴いベッド柵等が必要になる事も考えられるが見守りを強化する事で拘束しない方法を考案中です。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当施設のグループホームは、2階にありそれぞれの居室の鍵はかけていないが玄関にはかけている状況である。		車両の通りが多く安全の為に鍵をかけているが鍵をかけない努力をしていきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中ほとんどフロアにてすごされる方が多いが居室へ入られた時にはさりげなく声をかけ、又夜間は1時間毎の巡視を実施している。		プライバシーに配慮しながらも安全の為に声かけを十分行っていく。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所で使う刃物等はきちんと管理している。利用者様の持ち物で危険な物は預かるようにしている。		台所の包丁等は、箱に入れ冷蔵庫の上段(手の届かないところ)に保管している。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者様の行動を把握し事故防止に取り組んでいる。		どのような形で事故になるかわからず、常に気を引き締め防止に取り組んでいきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルに添って事故防止にとり組んでいる。		繰り返し行う事で確実なものにしていきたいがまだ全職員に徹底していない。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署による避難訓練を行っている。地域の人々の協力を得られるかは不安はある。		地域とのかかわりあいを多く持ち協力が得られるようにしていきたい。夜間の避難については不安が残る。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	それぞれの利用者様の状況を把握し御家族様と常に話し合いを持ちながら対応策を考えている、		御家族様との話し合いでリスク管理を行っていく。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタル測定を行い異常と感じた際には、職員間に申し送り、又かかりつけ医へ連絡、指示を受けている。		小さな変化を見逃さないようにいつもとは違う事を感じ取れるよう常に利用者様と接する。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更等、医師のの指示について健康管理シートへ記入、毎週薬チェック表がそれぞれの職員に渡され目を通し理解に努めている。		薬についての理解を深めるよう職員個人毎に努力していく。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分量の不足に気を配り、排泄パターンを把握しており、食事栄養士管理の元に便通の良いものを多く取り入れている。		朝の体操等で体も動かしていただき自然排便に工夫していく。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施。出来ない方には、職員が確実に支援している。		訪問歯科医との連携を図り口腔内のトラブルをなくしていきたい。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の摂取量が少ない方は、水分量のチェックを行う。食事は毎食チェックしている。		食事量の調整を行い体重増加のチェックを週に一度して管理を続けていきたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザについては職員、ご利用者様共予防接種を行っています。他、感染症については「感染症マニュアル」を作成。注意して実行しています。		うがいや手洗いの徹底を行っている。面会に来所される方への徹底が未だ不十分な為に今後は力を注ぎたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	月に一度、衛生管理のチェックが入り常に清潔に管理できている。		衛生管理の徹底を行い食の安全に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	植物を植える等して、親しみやすい工夫を行っている。		少し歩道より奥に玄関があり近隣の方々には気軽に入ってこれるには難しいところである。親しみやすいよう工夫していく。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや廊下などには、季節の飾り物等があり四季を感じていただいている。		今以上の生活感や季節感を採り入れるよう努めたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファや椅子等を置きそれぞれの利用者様がゆっくり過ごせるように工夫している。		利用者様にとって居心地の良い空間を作っていきたい。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には今まで使い慣れた物を持ち込んでいる方もある。テレビや写真、椅子等限られたスペースの中ではあるが好みのもの、又ホームで作った作品等も飾られている。		居心地良く過ごせるよう御本人の希望を伺い家族への持ち込みの呼びかけを続けていきたい。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、掃除の時には換気を行っている。各居室にはエアコンが設置され細かな温度管理を行っている。湿度は加湿器を使用して保たれている。		換気を十分行い、温度や湿度の調節を行っていく。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室等必要なところは手すりを設置している。利用者様それぞれに身体機能を活かし安全に生活が送れるよう援助している。		利用者様の状況変化に気を配り安全かつ自立した生活が送れるように援助していきたい。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	食器拭きや掃除等、利用者様一人一人に合わせ負担にならないような手伝いをさせていただいている。		家事への参加等、出来る事を見つけて援助していきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日にはベランダでの体操を楽しんだりお茶を飲んだり憩いの場としている。		外出が難しい状況である為、少しでも外の空気を感じていただけるようベランダを活用していきたい。

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 小倉南ケアセンター和が家

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者様の健康管理や安全面には特に気を配り配慮に力を入れています。外出レクリエーションが難しい状況になっていますが、日々の様々なレクリエーションを工夫したりクリスマス会や敬老会等ご家族様も招待して楽しんでいただいています。利用者様の個性を尊重し舞い尾に千恵が遅出で過ごせるよう職員一同努力しています。